

新旧対照表

大阪府立成人病センター治験標準業務手順書（平成 21 年 3 月 1 日改正）

（注）アンダーラインを付した部分は、改正部分である。

改正後	改正前
<p>大阪府立成人病センター治験標準業務手順書</p> <p style="text-align: right;">制定 <u>平成 10 年 4 月 1 日</u> 改訂 <u>平成 21 年 3 月 1 日</u></p> <p>第 1 章 治験の原則 (治験の原則) <u>大阪府立成人病センター（以下「本センター」という。）</u> <u>において実施する治験は、次に掲げる原則に従って実施</u> <u>されなければならない。</u></p> <p>1 治験は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及び<u>GCP（医薬品の臨床試験の実施に関する基準）</u>を遵守して 行わなければならない。</p> <p>2 ～ 14（略）</p> <p>第 2 章 目的と適用範囲 (目的と適用範囲) 第 1 条 本手順書は、<u>前章の治験の原則並びに薬事法</u> <u>（昭和 35 年法律第 145 号）、薬事法施行規則（昭和</u> <u>36 年厚生省令第 1 号）、「医薬品の臨床試験の実施の</u> <u>基準に関する省令」（平成 9 年厚生省令第 28 号。平成</u> <u>15 年厚生労働省令第 106 号、平成 16 年厚生労働省令</u> <u>第 172 号、平成 18 年厚生労働省令第 72 号及び平成</u> <u>20 年厚生労働省令第 24 号にて改正。以下「GCP 省</u> <u>令」という。）及び薬発第 430 号（平成 9 年 3 月 27 日）</u> <u>並びに薬食審査発第 0921001 号（平成 18 年 9 月 21</u> <u>日）の通知に基づいて、治験の実施に必要な手続きと運</u> <u>営に関する手順を定めるものである。</u></p> <p>2 本手順書は、医薬品の製造販売（輸入）承認申請又は承認 事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の ために行う治験に対して適用する。</p> <p>3 <u>「医薬品の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に</u> <u>関する省令」（平成 16 年厚生労働省令第 171 号）に</u> <u>基づく医薬品の再審査申請、再評価申請等の際提出す</u> <u>べき資料の収集のための製造販売後臨床試験を行う場合</u> <u>には、本手順書において、「治験」とあるのを「製造販売</u></p>	<p>大阪府立成人病センター治験に係わる標準業務手順 書</p> <p>治験の原則</p> <p>治験は、次に掲げる原則に則って実施されなければなら ない。</p> <p>1 治験は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則及び新 GCPを遵守して行わなければならない。 <u>（新GCP：改正薬事法、平成 9 年度厚生省第 28</u> <u>号（GCP 省令）及び 9 年度薬発第 430 号並びに平成</u> <u>9 年度 薬審第 445 号・薬安第 68 号を含む）</u></p> <p>2 ～ 14（略）</p> <p>第 1 章 目的と適用範囲 (目的と適用範囲) 第 1 条 本手順書は厚生省令第 28 号（平成 9 年 3 月 27 日）及び薬発第 430 号（平成 9 年 3 月 27 日）並びに薬審第 445 号・薬安第 68 号（平成 9 年 5 月 29 日）に基づいて、 治験の実施に必要な手続きと運営に関する手順を定め るものである。</p> <p>2 本手順書は、医薬品の製造（輸入）承認申請又は承認 事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の ために行う治験に対して適用する。</p> <p>3 医薬品の再審査申請、再評価申請等の際提出すべき 資料の収集のための<u>市販後臨床試験</u>を行う場合には、本 手順書において、「治験」とあるのを「<u>市販後臨床試験</u>」 と読み替えるものとする。</p>

後臨床試験」と読み替えるものとする。

第3章 総長の業務

(治験委託の申請等)

第2条 総長は、事前に治験責任医師より提出された治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)に基づき、治験分担医師及び治験協力者を指名する。総長は、指名後、治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)を、治験責任医師及び治験依頼者に各1部送付し、その写しを保存するものとする。

2 総長は、治験に関する治験責任医師と治験依頼者との文書による合意が成立した後、治験依頼者及び治験責任医師に対して、審査に必要な次に掲げる資料を治験事務局に提出させるものとする。

(1) 治験依頼書(書式3)及び治験の概要を記した文書

(2) 治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)

(3) 治験責任医師及び治験分担医師の履歴書(書式1)

(4) 治験実施計画書

(5) 症例報告書の見本

(6) 最新の治験薬概要書

(7) 説明文書及び同意文書

(8) 被験者の健康被害に対する補償の内容並びに補償手順を記した文書

(9) 被験者への支払に関する資料

(10) 予定される治験費用に関する資料

(11) 被験者の安全等に係る資料

(12) その他治験審査委員会が必要と認める資料

(治験実施の了承等)

第3条 総長は、治験責任医師に対して治験の実施を了承する前に、治験審査依頼書(書式4)に、治験依頼書(書式3)、治験責任医師及び治験分担医師の履歴書(書式1)及び治験実施計画書等の審査の対象となる文書を添付して、治験の実施について治験審査委員会の意見を求めるものとする。

2 総長は、治験審査委員会が治験の実施を承認する決定を下し、又は治験実施計画書、症例報告書、同意文書及びその他の説明文書並びにその他の手順について何らかの修正を条件に治験の実施を承認する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく総長の指示、決定を、治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

3 総長は、治験審査委員会が、修正を条件に治験の実

第2章 総長の業務

(治験委託の申請等)

第2条 総長は、事前に治験責任医師より提出された治験分担医師・治験協力者リスト(様式2)に基づき、治験関連の重要な業務の一部を分担させる者の指名を行う。総長が指名した治験分担医師・治験協力者リスト(様式2)は、治験責任医師及び治験依頼者に各1部を送付し、その写を保存するものとする。

2 総長は、治験に関する治験責任医師と治験依頼者との文書による合意が成立した後、治験依頼者及び治験責任医師に治験依頼書(様式4)及び治験申請書(様式3)とともに治験責任医師及び治験分担医師の履歴書(様式1)、治験実施計画書等の審査に必要な資料を提出させるものとする。

(治験実施の了承等)

第3条 総長は、治験責任医師に対して治験の実施を了承する前に、治験審査依頼書(様式5)に、治験依頼書(様式4)、治験責任医師及び治験分担医師の履歴書(様式1)及び治験実施計画書等の審査の対象となる文書を添付して、治験の実施について治験審査委員会の意見を求めるものとする。

2 総長は、治験審査委員会が治験の実施を承認する決定を下し、又は治験実施計画書、症例報告書、同意文書及びその他の説明文書並びにその他の手順について何らかの修正を条件に治験の実施を承認する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく総長の指示、決定を、治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

3 総長は、治験審査委員会が、修正を条件に治験の実

施を承認し、その点につき治験責任医師及び治験依頼者が治験実施計画書を修正した場合には、治験実施計画書等修正報告書(書式6)及び該当する資料を提出させるものとする。また、治験実施計画書等修正報告書(書式6)の写しと該当する資料を治験審査委員会に提出し、治験審査委員会は修正事項の確認を行う。

4 総長は、治験審査委員会が治験の実施を却下する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、治験の実施を了承することはできない。総長は、治験の実施を了承できない旨の総長の決定を、治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

5 総長は、治験依頼者から治験審査委員会の審査結果を確認するために審査に用いられた治験実施計画書、症例報告書等の文書の入手を求める旨の申し出があった場合には、これに応じなければならない。

(治験実施の契約等)

第4条 総長は、治験審査委員会の意見に基づいて治験の実施を了承した後、治験依頼者と治験契約書(成)書式2又は3)により契約を締結し、双方が記名又は署名し、捺印と日付を付すものとする。

2 (略)

3 治験審査委員会が修正を条件に治験の実施を承認した場合には、第3条第3項の治験実施計画書等修正報告書(書式6)により治験審査委員長が修正したことを確認した後に、治験契約書(成)書式2又は3)により契約を締結するとともに、治験責任医師は本条前項に従うものとする。

4 治験契約書の内容を変更する際には、本条第1項に準じて治験契約内容変更に関する覚書(成)書式4)を締結するとともに、治験責任医師は本条第2項に従うものとする。

5 治験契約書(成)書式2又は3)に定める通知及び報告の内容は下記のとおりとする。

(1) 治験依頼者は、次の情報を治験責任医師と総長に通知する(GCP省令第20条第2項、本手順書第9条に該当する。以下同様。)

①～⑦ (略)

(2)～(5) (略)

(治験の継続)

第5条 総長は、実施中の治験において少なくとも年1回、治験責任医師に治験実施状況報告書(書式11)を提出

施を承認し、その点につき治験責任医師及び治験依頼者が治験実施計画書を修正した場合には、治験実施計画書変更報告書(様式8)及び該当する資料を提出させるものとする。また、治験実施計画書変更報告書(様式8)の写しと該当する資料を治験審査委員会に提出し、治験審査委員会は修正事項の確認を行う。

4 総長は、治験審査委員会が治験の実施を却下する決定を下し、その旨を通知してきた場合は、治験の実施を了承することはできない。総長は、治験の実施を了承できない旨の総長の決定を、治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

5 総長は、治験依頼者から治験審査委員会の審査結果を確認するために審査に用いられた治験実施計画書、症例報告書等の文書の入手を求める旨の申し出があった場合には、これに応じなければならない。

(治験実施の契約等)

第4条 総長は、治験審査委員会の意見に基づいて治験の実施を了承した後、治験依頼者と治験契約書(様式9-1又は9-2)により契約を締結し、双方が記名又は署名し、捺印と日付を付すものとする。

2 (略)

3 治験審査委員会が修正を条件に治験の実施を承認した場合には、第3条第3項の治験実施計画書変更報告書(様式8)により治験審査委員長が修正したことを確認した後に、治験契約書(様式9-1又は9-2)により契約を締結するとともに、治験責任医師は本条前項に従うものとする。

4 治験契約書の内容を変更する際には、本条第1項に準じて治験契約内容変更に関する覚書(様式9-3)を締結するとともに、治験責任医師は本条第2項に従うものとする。

5 契約書(様式9-1又は9-2)に定める通知及び報告の内容は下記のものとする。

(1) 乙は、次の情報を治験責任医師と総長に通知する(GCP省令第20条第2項、本手順書第9条に該当する。以下同様。)

①～⑦ (略)

(2)～(5) (略)

(治験の継続)

第5条 総長は、実施中の治験において少なくとも年1回、治験責任医師に治験実施状況報告書(様式14)を提

させ、治験審査依頼書(書式4)及び治験実施状況報告書(書式11)の写しを治験審査委員会に提出し、治験の継続について治験審査委員会の意見を求めるものとする。

2 総長は、治験審査委員会の審査結果に基づく総長の指示、決定を、治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。修正を条件に承認する場合には、第3条第3項に準じるものとする。

3 総長は、治験審査委員会が実施中の治験の継続審査等において、治験審査委員会が既に承認した事項の取消し(治験の中止又は中断を含む)の決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく総長の指示、決定を、治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者書に通知するものとする。

4 (略)

(治験実施計画書の変更)

第6条 (略)

2 総長は、治験責任医師及び治験依頼者より治験実施計画書の変更につき治験に関する変更申請書(書式10)の提出があった場合には、治験の継続の可否について、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を、治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(治験実施計画書からの逸脱)

第7条 総長は、治験責任医師より緊急の危険を回避するための治験実施計画書からの逸脱に関する報告書(書式8)の提出があった場合は、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書(成)書式1)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(重篤な有害事象の発生)

第8条 総長は、治験責任医師より重篤な有害事象に関する報告(書式12-1、12-2)があった場合は、治験責任医師が判定した治験薬との因果関係並びに予測性を特定する。また、重篤で予測できない副作用の場合には、治

出させ、治験審査依頼書(様式5)及び治験実施状況報告書(様式14)の写を治験審査委員会に提出し、治験の継続について治験審査委員会の意見を求めるものとする。

2 総長は、治験審査委員会の審査結果に基づく総長の指示、決定を、治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。修正を条件に承認する場合には、第3条第3項に準じるものとする。

3 総長は、治験審査委員会が実施中の治験の継続審査等において、治験審査委員会が既に承認した事項の取消し(治験の中止又は中断を含む)の決定を下し、その旨を通知してきた場合は、これに基づく総長の指示、決定を、治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼書に通知するものとする。

4 (略)

(治験実施計画書の変更)

第6条 (略)

2 総長は、治験責任医師及び治験依頼者より治験実施計画書変更許可願(様式10)があった場合には、治験の継続の可否について、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を、治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(治験実施計画書からの逸脱)

第7条 総長は、治験責任医師より緊急回避のための治験実施計画書からの逸脱に関する報告(様式15-1)があった場合は、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により、治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(重篤な有害事象の発生)

第8条 総長は、治験責任医師より重篤な有害事象に関する報告(様式12)があった場合は、治験責任医師が判定した治験薬との因果関係並びに予測性を特定する。また、重篤で予測できない副作用の場合には、治験の継続

験の継続の可否について、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに治験に関する指示・決定通知書((成)書式1)により治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(新たな安全性に関する情報の報告)

第9条 総長は、治験依頼者より新たな安全性情報等に関する報告書(書式16)を受けた場合は、治験の継続の可否について治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果通知書(書式5)及び治験審査委員会委員出欠リスト(書式5-2)の写しとともに、治験に関する指示・決定書((成)書式1)により治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

なお、被験者の安全又は当該治験の実施に悪影響を及ぼす可能性のある重大な新たな情報には、以下のものが含まれる。

①～⑦ (略)

(治験の中止、中断及び終了)

第10条 総長は、治験依頼者が治験の中止又は中断、若しくは被験薬の開発中止を決定し、その旨を開発の中止等に関する報告書(書式18)で通知してきた場合は、治験責任医師及び治験審査委員会に対し、速やかにその旨を開発の中止等に関する報告書(書式18)の写しにより通知するものとする。なお、通知の文書には、中止又は中断についての詳細が説明されていなければならない。

また、開発の中止等に関する報告書(書式18)に治験責任医師が作成した治験終了(中止・中断)報告書(書式17)の写しを添付して治験依頼者及び治験審査委員会に提出するものとする。

2 総長は、治験責任医師が治験を終了し、又は自らの判断で中止又は中断し、その旨を治験終了(中止・中断)報告書(書式17)により報告してきた場合は、速やかに治験依頼者及び治験審査委員会に治験終了(中止・中断)報告書(書式17)の写しにより通知するものとする。

(直接閲覧)

第11条 (略)

2 治験依頼者は、原則として閲覧希望日の2週間前までに直接閲覧実施連絡票((成)書式5)を治験事務局に提出しなければならない。

の可否について、治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに治験に関する指示・決定通知書(様式7)により治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

(重大な新たな安全性に関する情報の入手)

第9条 総長は、依頼者より新たな安全性に関する報告書(様式13)を入手した場合は、治験の継続の可否について治験審査委員会の意見を求め、総長の指示、決定を治験審査結果報告書(様式6-1)及び治験審査委員会委員出欠リスト(様式6-2)の写とともに、治験に関する指示・決定書(様式7)により治験責任医師及び治験依頼者に通知するものとする。

なお、被験者の安全又は当該治験の実施に悪影響を及ぼす可能性のある重大な新たな情報には、以下のものが含まれる。

①～⑦ (略)

(治験の中止、中断及び終了)

第10条 総長は、治験依頼者が治験の中止又は中断、若しくは被験薬の開発中止を決定し、その旨を文書(様式18)で通知してきた場合は、治験責任医師及び治験審査委員会に対し、速やかにその旨を文書(様式18)の写により通知するものとする。なお、通知の文書には、中止又は中断についての詳細が説明されていなければならない。

また、治験中止に関する通知書(様式17)に治験責任医師が作成した治験中止報告書(様式16)の写を添付して治験依頼者及び治験審査委員会に提出するものとする。

2 総長は、治験責任医師が治験を中止又は中断し、その旨を報告(様式16)してきた場合は、速やかに治験依頼者及び治験審査委員会に治験中止通知書(様式17)と治験中止報告書(様式16)の写を提出し、通知するものとする。

3 総長は、治験責任医師が治験の終了を報告(様式16)してきた場合には、治験依頼者及び治験審査委員会に対し、速やかに治験終了通知書(様式17)及び治験終了報告書(様式16)の写を提出し、通知するものとする。

(直接閲覧)

第11条 (略)

2 新設

第4章 治験審査委員会

(治験審査委員会及び治験審査委員会事務局の設置)

第12条 (略)

第5章 治験責任医師の業務

(治験責任医師の要件)

第13条 治験責任医師は、以下の要件を満たさなくてはならない。

(1) 治験責任医師は、教育・訓練及び経験によって、治験を適正に実施しうる者でなければ ならない。また、治験責任医師は、このことを証明する最新の履歴書(書式1)及び治験分担医師を置く場合には当該治験分担医師の履歴書(書式1)を、治験依頼者に提出するものとする。

(2) 治験責任医師は、治験依頼者と合意した治験実施計画書、最新の治験実施薬概要書、製品情報及び治験依頼者が提供するその他の文書に記載されている治験薬の適切な使用法に十分精通していなければならない。

(3) 治験責任医師は、薬事法第14条第3項及び第80条の2に規定する基準並びにGCP省令を熟知し、これを遵守しなければならない。

(4)～(7) (略)

(8) 治験責任医師は、治験関連の重要な業務の一部を治験分担医師又は治験協力者に分担させる場合には、治験分担医師・治験協力者リスト(書式2)を作成し、予め総長に提出し、その指名を受けなければならない。

(9) (略)

(治験責任医師の責務)

第14条 治験責任医師は次の事項を行う。

(1)～(6) (略)

(7) 治験依頼の申し出があった場合、治験依頼者との同意を行った後、総長に治験実施の申請を治験依頼書(書式3)により行うこと。

(8) 治験審査委員会が治験の実施又は継続を承認し、又は何らかの修正を条件に治験の実施又は継続を承認し、これに基づく総長の指示、決定が治験に関する指示・決定通知書((成)書式1)で通知された後に、その指示、決定に従って治験を開始又は継続すること。又は、治験審査委員会が実施中の治験に関して承認した事項を取消し(治験の中止又は中断を含む)、これに基づく総長の指示、決定が文書で通知(成)書式1)された場合には、その指示、決定に従うこと。

(9) 治験責任医師は、治験審査委員会が当該治験の実

第3章 治験審査委員会

(治験審査委員会及び治験審査委員会事務局の設置)

第12条 (略)

第4章 治験責任医師の業務

(治験責任医師の要件)

第13条 治験責任医師は、以下の要件を満たさなくてはならない。

(1) 治験責任医師は、教育・訓練及び経験によって、治験を適正に実施しうる者でなければ ならない。また、治験責任医師は、このことを証明する最新の履歴書(様式1)及び治験分担医師を置く場合には当該治験分担医師の履歴書(様式1)を、治験依頼者に提出するものとする。

(2) 治験責任医師は、治験依頼者と合意した治験実施計画書、最新の治験実施薬概要書、製品情報及び治験依頼者が提供するその他の文書に記載されている治験薬の適切な使用法に十分精通していなければならない。

(3) 治験責任医師は、薬事法第14条第3項及び第80条の2に規定する基準並びにGCPを熟知し、これを遵守しなければならない。

(4)～(7) (略)

(8) 治験責任医師は、治験関連の重要な業務の一部を治験分担医師又は治験協力者に分担させる場合には、分担させる業務と分担させる者のリスト(様式2)を作成し、予め総長に提出し、その指名を受けなければならない。

(9) (略)

(治験責任医師の責務)

第14条 治験責任医師は次の事項を行う。

(1) 治験実施計画書の被験者の選択・除外基準の設定及び治験を実施する際の個々の被験者の選定にあたっては、人権保護の観点から及び治験の目的に応じ、健康状態、症状、年齢、性別、同意能力、治験責任医師等との依存関係、他の治験への参加の有無等を考慮し、治験に参加を求めることの適否を慎重に検討すること。

(2) 同意能力を欠く者については、当該治験の目的上、被験者とするのがやむを得ない場合を除き、原則として被験者としないこと。

(3) 社会的に弱い立場にある者を被験者とする場合には、特に慎重な配慮を払わなくてはならないこと。

(4) 治験実施計画書及び症例報告書について治験依頼者と合意する前に、治験依頼者から提供される治験実施計画書案、症例報告書案及び最新の治験薬概要書その他

施を承認し、これに基づく総長の指示、決定が文書で通知((成)書式1)される前に、被験者を治験に参加させてはならない。

(10)本手順書第17条で規定する場合を除いて、治験実施計画書を遵守して治験を実施すること。

(11)治験薬を承認された治験実施計画書を遵守した方法のみで使用すること。

(12)治験薬の正しい使用法を各被験者に説明、指示し、当該治験薬にとって適切な間隔で、各被験者が説明された指示を正しく守っているか否かを確認すること。

(13)実施中の治験において少なくとも年1回、総長に治験実施状況報告書(書式11)を提出すること。

(14)治験の実施に重大な影響を与え、又は被験者の危険を増大させるような治験のあらゆる変更について、治験依頼者及び総長に速やかに治験に関する変更申請書(書式10)を提出するとともに、変更の可否について総長の指示((成)書式1)を受けること。

(15)治験実施中に重篤な有害事象が発生した場合は、重篤で予測できない副作用を特定した上で速やかに総長及び治験依頼者に文書(書式12-1、12-2)で報告するとともに、治験の継続の可否について総長の指示((成)書式1)を受けること。

(16)治験実施計画書の規定に従って正確な症例報告書を作成し、記名捺印又は署名し、治験依頼者に提出すること。また治験分担医師が作成した症例報告書については、それらが治験依頼者に提出される前にその内容を点検し、問題がないことを確認した上で記名捺印又は署名するものとする。

(17)治験終了後、速やかに総長に治験終了報告書(書式17)を提出すること。

なお、治験が中止又は中断された場合においても同様の手続きを行うこと。

(被験者の同意の取得)

第15条 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、被験者に対して同意文書及びその他の説明文書を用いて十分に説明し、治験への参加について自由意思による同意を文書により得るものとする。

2 同意文書には、説明を行った治験責任医師又は治験分担医師、並びに被験者が記名捺印又は署名し、各自日付を記入するものとする。なお、治験協力者が補足的な説明を行った場合には、当該治験協力者も記名捺印又は署名し、日付を入力するものとする。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、前項の規定に従って記名捺印又は署名と

必要な資料・情報に基づき治験依頼者と協議し、当該治験を実施することの倫理的及び科学的妥当性について十分検討すること。治験実施計画書及び症例報告書が改訂される場合も同様である。

(5)治験実施の申請をする前に、治験依頼者の協力を得て、被験者から治験の参加に関する同意を得るために用いる同意文書及びその他の説明文書を作成する。

(6)治験実施前及び治験期間を通じて、治験審査委員会の審査の対象となる文書のうち、治験責任医師が提出すべき文書を最新のものにすること。当該文書が追加、更新又は改訂された場合は、その全てを速やかに総長に提出すること。

(7)治験依頼の申し出があった場合、治験依頼者との同意を行った後、総長に治験実施の申請(様式3)をすること。

(8)治験審査委員会が治験の実施又は継続を承認し、又は何らかの修正を条件に治験の実施又は継続を承認し、これに基づく総長の指示、決定が文書(様式7)で通知された後に、その指示、決定に従って治験を開始又は継続すること。又は、治験審査委員会が実施中の治験に関して承認した事項を取消し(治験の中止又は中断を含む)、これに基づく総長の指示、決定が文書で通知(様式7)された場合には、その指示、決定に従うこと。

(9)治験責任医師は、治験審査委員会が当該治験の実施を承認し、これに基づく総長の指示、決定が文書で通知(様式7)される前に、被験者を治験に参加させてはならない。

(10)本手順書第17条で規定する場合を除いて、治験実施計画書を遵守して治験を実施すること。

(11)治験薬を承認された治験実施計画書を遵守した方法のみで使用すること。

(12)治験薬の正しい使用法を各被験者に説明、指示し、当該治験薬にとって適切な間隔で、各被験者が説明された指示を正しく守っているか否かを確認すること。

(13)実施中の治験において少なくとも年1回、総長に治験実施状況報告書(様式14)を提出すること。

(14)治験の実施に重大な影響を与え、又は被験者の危険を増大させるような治験のあらゆる変更について、治験依頼者及び総長に速やかに申請書を提出する(様式10)とともに、変更の可否について総長の指示(様式7)を受けること。

(15)治験実施中に重篤な有害事象が発生した場合は、重篤で予測できない副作用を特定した上で速やかに総長及び治験依頼者に文書(様式12)で報告するとともに、

日付が記入された同意文書の写及びその他の説明文書を被験者に渡さなければならない。また、被験者が治験に参加している間に、同意文書及びその他の説明文書が改訂された場合は、その都度新たに前項の規定に従って記名捺印又は署名と日付を記入した同意文書の写及び改訂されたその他の説明文書を被験者に渡さなければならない。

4 治験責任医師、治験分担医師及び治験協力者は、治験への参加又は治験への参加の継続に関し、被験者に強制したり又は不当な影響を及ぼしてはならない。

5 同意文書及びその他の説明文書並びに説明に関して口頭で提供される情報には、被験者に権利を放棄させるかそれを疑わせる語句、又は治験責任医師、治験分担医師、治験協力者、医療機関、治験依頼者の法的責任を免除するかそれを疑わせる語句が含まれてはならない。

6 口頭及び文書による説明並びに同意文書には、被験者が理解可能で、可能な限り非専門的な言葉が用いられていなければならない。

7 治験責任医師又は治験分担医師は、同意を得る前に、被験者が質問をする機会と、治験に参加するか否かを判断するのに十分な時間を与えなければならない。その際、当該治験責任医師、治験分担医師又は補足的説明者としての治験協力者は、全ての質問に対して被験者が満足するよう答えなければならない。

8 被験者の同意に関連し得る新たな重要な情報が得られた場合には、治験責任医師は、速やかに当該情報に基づき同意文書及びその他の説明文書を改訂し、予め治験審査委員会の承認を得なければならない。また、治験責任医師又は治験分担医師は、すでに治験に参加している被験者に対しても、当該情報を速やかに被験者に伝え、治験に継続して参加するか否かについて、被験者の意思を確認するとともに、改訂された同意文書及びその他の説明文書を用いて改めて説明し、治験への参加の継続について被験者から自由意思による同意を文書で得なければならない。

9 治験に継続して参加するか否かについての被験者の意思に影響を与える可能性のある情報が得られた場合には、治験責任医師又は治験分担医師は、当該情報を速やかに被験者に伝え、治験に継続して参加するか否かについて被験者の意思を確認しなければならない。この場合、当該情報が被験者に伝えられたことを文書に記録しなければならない。

10 被験者の同意取得が困難な場合、非治療的治験を実

治験の継続の可否について総長の指示(様式7)を受けること。

(16) 治験実施計画書の規定に従って正確な症例報告書を作成し、記名捺印又は署名し、治験依頼者に提出すること。また治験分担医師が作成した症例報告書については、それらが治験依頼者に提出される前にその内容を点検し、問題がないことを確認した上で記名捺印又は署名するものとする。

(17) 治験終了後、速やかに総長に治験の終了報告書(様式16)を提出すること。

なお、治験が中止又は中断された場合においても同様の手続きを行うこと。

(被験者の同意の取得)

第15条 治験責任医師及び治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、被験者に対して同意文書及びその他の説明文書を用いて十分に説明し、治験への参加について自由意思による同意を文書により得るものとする。

2 同意文書には、説明を行った治験責任医師又は治験分担医師、被験者が記名捺印又は署名し、各自日付を記入するものとする。なお、治験協力者が補足的な説明を行った場合には、当該治験協力者も記名捺印又は署名し、日付を入力するものとする。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者が治験に参加する前に、前項の規定に従って記名捺印又は署名と日付が記入された同意文書の写及びその他の説明文書を被験者に渡さなければならない。また、被験者が治験に参加している間に、同意文書及びその他の説明文書が改訂された場合は、その都度新たに前項の規定に従って記名捺印又は署名と日付を記入した同意文書の写及び改訂されたその他の説明文書を被験者に渡さなければならない。

4 治験責任医師、治験分担医師及び治験協力者は、治験への参加又は治験への参加の継続に関し、被験者に強制したり又は不当な影響を及ぼしてはならない。

5 同意文書及びその他の説明文書並びに説明に関して口頭で提供される情報には、被験者に権利を放棄させるかそれを疑わせる語句、又は治験責任医師、治験分担医師、治験協力者、医療機関、治験依頼者の法的責任を免除するかそれを疑わせる語句が含まれてはならない。

6 口頭及び文書による説明並びに同意文書には、被験者が理解可能で、可能な限り非専門的な言葉が用いられていなければならない。

7 治験責任医師又は治験分担医師は、同意を得る前

施する場合、緊急状況下における救命的治験の場合及び被験者が同意文書等を読めない場合については、GCP省令第50条第2項、第3項、第4項及び第55条を遵守する。

(被験者に対する医療)

第16条 治験責任医師は、治験に関連する医療上の全ての判断に責任を負うものとする。

2 総長及び治験責任医師は、被験者の治験参加期間中及びその後を通じ、治験に関連した臨床上問題となる全ての有害事象に対して、十分な医療が被験者に提供されることを保証するものとする。また、治験責任医師又は治験分担医師は、有害事象に対する医療が必要となったことを知った場合には、被験者にその旨を伝えなければならない。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者に他の主治医がいるか否かを確認し、被験者の同意のもとに、主治医に被験者の治験への参加について知らせなければならない。

4 被験者が治験の途中で参加を取り止めようとする場合、又は取り止めた場合には、被験者はその理由を明らかにする必要はないが、治験責任医師又は治験分担医師は、被験者の権利を十分に尊重した上で、その理由を確認するための適切な努力を払わなければならない。

(治験実施計画書からの逸脱等)

第17条 治験責任医師又は治験分担医師は、治験依頼者との事前の文書による合意及び治験審査委員会の事前の審査に基づく文書による承認を得ることなく、治験実施計画書からの逸脱又は変更を行ってはならない。ただし、被験者の緊急の危険を回避するためのものであるなど医療上やむを得ないものである場合又は治験の事務的事項(例えば、電話番号の変更)のみに関する変更である場合には、この限りではない。

2 治験責任医師又は治験分担医師は、承認された治験実施計画書からの逸脱した行為を全て記録しなければならない。治験責任医師は、その理由等を説明した記録を作成して治験依頼者に治験実施計画書からの逸脱(緊急の危険回避の場合を除く)に関する報告書(書式7)を提出し、その写しを保存しなければならない。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者の緊急の危険を回避するためのものである等医療上やむを得ない事情のために、治験依頼者との事前の文書による合意及び治験審査委員会の事前の承認なしに治験実施計画書からの逸脱又は変更を行うことができる。その際には、治験責任医師は、逸脱又は変更の内容及び理由並びに治験実

に、被験者が質問をする機会と、治験に参加するか否かを判断するのに十分な時間を与えなければならない。その際、当該治験責任医師、治験分担医師又は補足的説明者としての治験協力者は、全ての質問に対して被験者が満足するよう答えなければならない。

8 被験者の同意に関連し得る新たな重要な情報が得られた場合には、治験責任医師は、速やかに当該情報に基づき同意文書及びその他の説明文書を改訂し、予め治験審査委員会の承認を得なければならない。また、治験責任医師又は治験分担医師は、すでに治験に参加している被験者に対しても、当該情報を速やかに被験者に伝え、治験に継続して参加するか否かについて、被験者の意思を確認するとともに、改訂された同意文書及びその他の説明文書を用いて改めて説明し、治験への参加の継続について被験者から自由意思による同意を文書で得なければならない。

注) 重大な新たな安全性に関する情報の入手 第9条参照

9 治験に継続して参加するか否かについての被験者の意思に影響を与える可能性のある情報が得られた場合には、治験責任医師又は治験分担医師は、当該情報を速やかに被験者に伝え、治験に継続して参加するか否かについて被験者の意思を確認しなければならない。この場合、当該情報が被験者に伝えられたことを文書に記録しなければならない。

10 被験者の同意取得が困難な場合、非治療的治験を実施する場合、緊急状況下における救命的治験の場合及び被験者が同意文書等を読めない場合については、GCP 答申7-2-2、7-2-3、7-2-4及び7-2-5を遵守する。

(被験者に対する医療)

第16条 治験責任医師は、治験に関連する医療上の全ての判断に責任を負うものとする。

2 総長及び治験責任医師は、被験者の治験参加期間中及びその後を通じ、治験に関連した臨床上問題となる全ての有害事象に対して、十分な医療が被験者に提供されることを保証するものとする。また、治験責任医師又は治験分担医師は、有害事象に対する医療が必要となったことを知った場合には、被験者にその旨を伝えなければならない。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者に他の主治医がいるか否かを確認し、被験者の同意のもとに、主治医に被験者の治験への参加について知らせなければならない。

4 被験者が治験の途中で参加を取り止めようとする

施計画書の改訂が適切な場合には、その案を可能な限り早急に総長及び総長を経由して治験審査委員会に提出(書式8)してその承認を得るとともに、総長の了承及び総長を経由して治験依頼者の合意を文書(書式9)で得なければならない。

第6章 治験薬の管理

(治験薬の管理)

第18条 治験薬の管理責任は、総長が負うものとする。

2 総長は、治験薬を保管、管理させるため薬局長を治験薬管理者とし、病院内で実施される全ての治験の治験薬を管理させるものとする。

なお、治験薬管理者は必要に応じて治験薬管理補助者を指名し、治験薬の保管、管理を行わすことができる。

3 治験薬管理者は、治験依頼者が作成した治験薬の取扱い及び保管、管理並びにそれらの記録に際して従うべき指示を記載した手順書に従って、またGCP省令を遵守して適正に治験薬を保管、管理する。

4 治験薬管理者は次の業務を行う。

1) 治験薬を受領し、治験薬受領書を発行する。

2) 治験薬の保管、管理及び払い出しを行う。

3) 治験薬管理表及び治験薬出納表を作成し、治験薬の使用状況及び治験進捗状況を把握する。

4) 被験者からの未服用治験薬の返却記録を作成する。

5) 未使用治験薬(被験者からの未服用返却治験薬、使用期限切れ治験薬、欠陥品を含む)を治験依頼者に返却し、未使用治験薬返却書を発行する。

6) その他、第3項の治験依頼者が作成した手順書に従う。

5 治験薬管理者は、治験実施計画書に規定された量の治験薬が被験者に投与されていることを確認する。

第7章 治験事務局

(治験事務局の設置及び業務)

第19条 総長は、治験の実施に関する事務及び支援を行う者を指定し、治験事務局を設けるものとする。なお、治験事務局は治験審査委員会事務局を兼ねるものとする。

2 治験事務局は、次の者で構成する。

治験事務局長：外部委員を除く委員のうち選出された者
事務局員：病院長、副院長、薬局長、診療科部長1名、総務マネージャー、外部委員

3 治験事務局は、総長の指示により、次の業務を行うものとする。

1) 治験審査委員会の委員の指名に関する業務(委員名簿の作成を含む)

場合、又は取り止めた場合には、被験者はその理由を明らかにする必要はないが、治験責任医師又は治験分担医師は、被験者の権利を十分に尊重した上で、その理由を確認するための適切な努力を払わなければならない。

(治験実施計画書からの逸脱等)

第17条 治験責任医師又は治験分担医師は、治験依頼者との事前の文書による合意及び治験審査委員会の事前の審査に基づく文書による承認を得ることなく、治験実施計画書からの逸脱又は変更を行ってはならない。ただし、被験者の緊急の危険を回避するためのものであるなど医療上やむを得ないものである場合又は治験の事務的事項(例えば、電話番号の変更)のみに関する変更である場合には、この限りではない。

2 治験責任医師又は治験分担医師は、承認された治験実施計画書からの逸脱した行為を全て記録しなければならない。治験責任医師は、その理由等を説明した記録を作成して治験依頼者に提出(様式15-1)し、その写を保存しなければならない。

3 治験責任医師又は治験分担医師は、被験者の緊急の危険を回避するためのものである等医療上やむを得ない事情のために、治験依頼者との事前の文書による合意及び治験審査委員会の事前の承認なしに治験実施計画書からの逸脱又は変更を行うことができる。その際には、治験責任医師は、逸脱又は変更の内容及び理由並びに治験実施計画書の改訂が適切な場合には、その案を可能な限り早急に総長及び総長を経由して治験審査委員会に提出(様式15-2)してその承認を得るとともに、総長の了承及び総長を経由して治験依頼者の合意を文書(様式15-3)で得なければならない。

第5章 治験薬の管理

(治験薬の管理)

第18条 治験薬の管理責任は、総長が負うものとする。

2 総長は、治験薬を保管、管理させるため薬局長を治験薬管理者とし、病院内で実施される全ての治験の治験薬を管理させるものとする。

なお、治験薬管理者は必要に応じて治験薬管理補助者を指名し、治験薬の保管、管理を行わすことができる。

3 治験薬管理者は、治験依頼者が作成した治験薬の取扱い及び保管、管理並びにそれらの記録に際して従うべき指示を記載した手順書に従って、また新GCPを遵守して適正に治験薬を保管、管理する。

- 2) 治験依頼者に対する必要書類の交付と治験依頼手続きの説明
- 3) 治験依頼書及び治験審査委員会が審査の対象とする審査資料の受付
- 4) 治験審査結果報告書に基づく総長の治験に関する指示・決定通知書の作成と治験依頼者及び治験責任医師への通知書の交付(治験審査委員会の審査結果を確認するために必要とする文書の治験依頼者への交付を含む)
- 5) 治験契約に係わる手続き等の業務
- 6) 治験終了(中止)報告書の受領及び治験終了(中止)通知書の交付
- 7) 記録の保存
- 8) 治験の実施に必要な手続きの作成
- 9) その他治験に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援

第8章 記録の保存

(記録の保存責任者)

第20条 総長は、医療機関において保存すべき必須文書の保存責任者を指名するものとする。

2 記録ごとに定める保存責任者は次のとおりとする。

(1) 診療録・検査データ・同意文書等：診療録等保存室の責任者

(2) 治験受託に関する文書等：治験事務局

(3) 治験薬に関する記録(治験薬管理表、治験薬出納表、被験者からの未服用薬返却記録、治験薬納品書、未使用治験薬受領書等)：治験薬管理者

3 総長又は記録の保存責任者は、医療機関において保存すべき必須文書が第21条第1項に定める期間中に紛失又は廃棄されることがないように、また、求めに応じて提示できるよう措置を講じるものとする。

(記録の保存期間)

第21条 総長は、医療機関において保存すべき必須文書を、次の各号のいずれか後の日までの間保存するものとする。ただし、治験依頼者がこれよりも長期間の保存を必要とする場合には、保存期間及び保存方法について治験依頼者と協議するものとする。

1) 当該被験薬に係る製造販売(輸入)承認日(開発が中止された場合には開発中止が決定された日から3年が経過した日)

2) 治験の中止又は終了後3年が経過した日

2 総長は、治験依頼者より前項にいう承認取得あるいは開発中止の連絡を受けるものとする(書式18)。

3 製造販売後臨床試験の保存期間は、再審査又は再評

4 治験薬管理者は次の業務を行う。

1) 治験薬を受領し、治験薬受領書を発行する。

2) 治験薬の保管、管理及び払い出しを行う。

3) 治験薬管理表及び治験薬出納表を作成し、治験薬の使用状況及び治験進捗状況を把握する。

4) 被験者からの未服用治験薬の返却記録を作成する。

5) 未使用治験薬(被験者からの未服用返却治験薬、使用期限切れ治験薬、欠陥品を含む)を治験依頼者に返却し、未使用治験薬返却書を発行する。

6) その他、第3項の治験依頼者が作成した手順書に従う。

5 治験薬管理者は、治験実施計画書に規定された量の治験薬が被験者に投与されていることを確認する。

第6章 治験事務局

(治験事務局の設置及び業務)

第19条 総長は、治験の実施に関する事務及び支援を行う者を指定し、治験事務局を設けるものとする。なお、治験事務局は治験審査委員会事務局を兼ねるものとする。

2 治験事務局は、次の者で構成する。

事務局長：外部委員を除く委員のうち選出された者

事務局員：病院長、副院長、薬局長、診療科部長1名、総務課長、外部委員

3 治験事務局は、総長の指示により、次の業務を行うものとする。

1) 治験審査委員会の委員の指名に関する業務(委員名簿の作成を含む)

2) 治験依頼者に対する必要書類の交付と治験依頼手続きの説明

3) 治験依頼書及び治験審査委員会が審査の対象とする審査資料の受付

4) 治験審査結果報告書に基づく総長の治験に関する指示・決定通知書の作成と治験依頼者及び治験責任医師への通知書の交付(治験審査委員会の審査結果を確認するために必要とする文書の治験依頼者への交付を含む)

5) 治験契約に係わる手続き等の業務

6) 治験終了(中止)報告書の受領及び治験終了(中止)通知書の交付

7) 記録の保存

8) 治験の実施に必要な手続きの作成

9) その他治験に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援

第7章 記録の保存

価が終了する日までとする。ただし、製造販売後臨床試験依頼者から特に申し出があった場合の保存期間及び保存方法については、製造販売後臨床試験依頼者と協議の上、定めるものとする。

附則 この手順書は、平成21年3月1日から施行する。

(記録の保存責任者)

第20条 総長は、医療機関において保存すべき必須文書の保存責任者を指名するものとする。

注) GCP答申に添付される「必須文書」を参照

2 記録ごとに定める保存責任者は次のとおりとする。

(1) 診療録・検査データ・同意文書等：診療録等保存室の責任者

(2) 治験受託に関する文書等：治験事務局

(3) 治験薬に関する記録(治験薬管理表、治験薬出納表、被験者からの未服用薬返却記録、治験薬納品書、未使用治験薬受領書等)：治験薬管理者

3 総長又は記録の保存責任者は、医療機関において保存すべき必須文書が第21条第1項に定める期間中に紛失又は廃棄されることがないように、また、求めに応じて提示できるよう措置を講じるものとする。

(記録の保存期間)

第21条 総長は、医療機関において保存すべき必須文書を、1)又は2)の日のうち後の日までの間保存するものとする。ただし、治験依頼者がこれよりも長期間の保存を必要とする場合には、保存期間及び保存方法について治験依頼者と協議するものとする。

1) 当該被験薬に係る製造(輸入)承認日(開発が中止された場合には開発中止が決定された日から3年が経過した日)

2) 治験の中止又は終了後3年が経過した日

2 総長は、治験依頼者より前項にいう承認取得あるいは開発中止の連絡を受けるものとする(様式18)。